

無釉タイルコーティング(濡れ色なし)標準作業要領書

施工対象

1. タイルの表面に釉薬が施されていない**無釉タイル**であり、**水が浸透するタイル**。
水の浸透可否については、乾いたタイルに水をかけた時に、タイル表面の色が濡れ色に変化する場合は、浸透するものと判断する。
2. **モルタル目地**
シリコンシーラー目地には適用不可。 ; シリコンシーラーの柔軟性によりパーミエトの塗膜にクラック・剥離が発生します。

施工後の外観

- タイル表面 : 塗布量によって、無処理品と変わらない外観もしくは少し濡れ色が出ている外観。
モルタル目地 : 無処理品と変わらない外観もしくは少し濡れ色が出ている外観。

使用する製品

無溶剤無機系封孔剤 パーミエト HS-360

製品性状

		HS-360
容姿		1液
荷姿		18Kg/缶、4Kg/缶、500g/缶
色相		クリアー
比重 23℃		1.04
粘度 mPa・s 23℃		4.0
不揮発分		68
指触硬化時間 23℃ * 50%RH		36 Hr
引火点 ℃		30.0
適用法令	消防法	第4類第2石油類(非水溶性)
	安衛法通知対象物質 (57条の2第1項)	エタノール アルコキシラン
	PRTR法指定化学物質	対象外

工法の特長

1. パーミエトHS-360は大気中の水分と反応して硬化し、形成される樹脂は無機系であるため、**耐候性(耐紫外線性)、耐熱性に優れています**。
2. タイルおよびモルタル目地の微細孔に浸透した後、**3次元の無機系樹脂を形成して硬化し、微細孔を塞ぐので、白華(エフロレッセンス)を防止することができます**。
3. タイルおよびモルタル目地の1~2mm深さに浸透し硬化しますので、表層から1~2mm深さの微細孔が空いているため、汚れが沈着しやすくなる恐れがあります。

施工基準

項目	内容		項目	内容	
適用温度	5~50℃		塗布方法	刷毛、ローラー、スプレー	
機材洗浄用シンナー	パーミエト用シンナー		製品のシンナー希釈	希釈厳禁	
塗布仕様					
工程	使用製品	理論塗布量 g/m ²	硬化後塗膜厚さ μm	塗布間隔 Hr	
素地調整	基材表面・微細孔にある付着物の除去および乾燥				
上塗り	HS-360	100	-		

理論塗布量は基材への付着量を意味していますので、実際の使用量は上記値に作業時ロスを織り込んで下さい。

施工上の注意事項

1. パーミットは、大気中の水分を吸収して硬化が進みますので、**開缶後、必要量を取り出した後は速やかに密封し、冷所にて保管して下さい。**
2. 開缶した容器のパーミット表面には薄い膜が張ることがありますが、この膜は健全な塗膜の形成に支障をきたしますので取り除いてお使い下さい。また工具類は専用のシナーで洗浄してお使い下さい。
夏場のような高温高湿度において、空気中の水分がパーミットに吸収されて急速に硬化反応が起こった時に薄膜が発生します。
3. パーミットは、塗布及び硬化時にアルコールを生成揮発させますので、密閉室内での作業時には**有機溶剤取り扱いに準拠してお取り扱い下さい。**
4. パーミットは、シナーで希釈することなくお使い下さい。
シナーで希釈しますと、細孔を塞ぐことができず、所定の性能を発現できなくなります。
5. **被塗布面の油、じんあい、その他の有害な付着物は除去して下さい。**
 - ・ 油、じんあい、その他の付着物の残存は、浸透しない原因となりますので、酸性もしくはアルカリ洗浄液で丹念に洗浄し、その後十分に水洗して下さい。
洗浄作業が間違いなく実施されたかどうかの判定は、酸性/アルカリ洗浄液で洗浄後適切な間隔でpH試験紙により酸/アルカリの存在をチェックし、更に水洗後にpH試験紙で中性に変わっていることをチェックすることが有効です。
 - ・ 白華が発生している被塗布面については、酸性洗浄液で丹念に洗浄して白華結晶 $\text{Ca}(\text{OH})_2$ を除去し、その後十分に水洗して下さい。
白華が発生している場合は、被塗布面の表面だけでなく、**表層の微細孔を塞いでいる $\text{Ca}(\text{OH})_2$ 結晶を除去する必要があります。**もし微細孔の結晶が除去されないとパーミットが微細孔へ浸透できなくなり、白華を抑えることはできません。
モルタル目地に白華が発生している場合は、目地モルタルを電動工具等で1-2mm除去し、新たなモルタルで修復することにより、モルタル表層に微細孔を形成させる方法も有効です。
6. **水洗後の乾燥は十分に行ってください。**水分の残存は浸透しない原因となります。
乾燥しているかどうかは、ペーパーウェスブランチ等で拭いてペーパーの色変化なしを観察する、コンクリートが乾燥色(白っぽい)、水分計測定により5%以下となっている等により判定してください。
一般的には、水洗後、常温下で24Hr乾燥させれば、乾燥は十分です。
7. パーミットは、刷毛・ローラー等を用いて、均一になるように塗布してください。
タイル表面に塗布したパーミットがだれて、タイルの下部・モルタル目地等に液溜りを作らないように、塗布直後に確認し、刷毛等で取り除いて下さい。
8. **塗布量は $100\text{g}/\text{m}^2$ を基準としますが、濡れ色の程度によって多少の増減をされても性能に大きな影響はありません。**
タイル種によりタイル内へのパーミットの浸透量が変動しますので(空隙量の違い)、事前に塗布テストを行い、塗布4Hr程度でタイル表面から液がなく濡れ色が無くなることを確認して下さい。
もし、上記テストで濡れ色が残る場合は、塗布量を低下させた塗布テストにより最適な塗布量を決定して下さい。
9. パーミットの硬化は、温度湿度に大きく影響され、低温低湿度では硬化反応が極端に低下しますので、 **5°C 以下での使用は避けて下さい。**また、塗布直後に零下になりますと氷結等により塗膜形成が影響されますので防寒対策を行ってください。
湿度は、 **20°C において20%RH以上に相当する絶対湿度**であることを確認して塗布作業を行ってください。
10. 塗布中及び直後に雨露にさらされると硬化に影響しますので、指触硬化完了までは雨露が当たらないように養生を行ってください。
11. 指触硬化完了までは、埃及び塵が付着しやすい状態ですので、シート等で養生を行ってください。